2003:103610/09 A96 D21 E19 KANEBO LTD

KANE 2001.05.18 *WO 200294214-A1

2002.02.08 2002-031848(+2001JP-148781) (2002.11.28) A61K 7/50. 7/02

Sheet for cleaning contains detergent comprising amphoteric surfactant and polyoxyalkylene glyceryl ether coated on non-

woven fabric, paper or film substrates (Jpn) C2003-026281 N(AE AG AL AM AT AU AZ BA BB BG BR BY BZ

CÀ CH CN CO CR CU CZ DE DK DM DZ EC EE ES

FI GB GD GE GH GM HR HU ID IL IN IS KE KG KP KR KZ LC LK LR LS LT LU LV MA MD MG MK MN MW MX MZ NO NZ PL PT RO RU SD SE SG SI SK SL TJ TM TR TT TZ UA UG US UZ VN YU ZA ZW) R(AT BE CH CY DE DK EA ES FI FR GB GH GM GR IE IT KE LS LU MC MW MZ NL OA PT SD SE SL SZ TR TZ UG ZM ZW)

Addnl. Data: SAITO M, YAMASHITA Y

> 2002.04.03 2002WO-JP03363, 2001.08.23 2001JP-252458, 2001.11.29 2001JP-363834, 2002.02.08 2002JP-031848

NOVELTY

.

Providing a sheet for cleansing.

A(10-E8C, 12-V4C) D(8-B9A1) E(7-D9A, 10-A3B, 10-A9B8, 10-A22D, 10-E4J)

DETAILED DESCRIPTION

A sheet for cleansing contains a detergent consisting of: (A) 40 wt.% or more of surfactants having 30-70 wt.% of a surfactant selected from amphoteric surfactant, and 8-22C higher aliphatic

acid amidopropyl amine oxide, and

(B) 1-15 wt.% of polyoxyalkylene glyceryl ether (alkylene has 2 and/or 3) coated on a substrate selected from non-woven fabric. paper, film, foam sheet or woven fabric. The sheet is wetted with water or solution during use.

INDEPENDENT CLAIMS are also included for (1) method of using the sheet by wetting the sheet with 2-20 weight folds of water or

solution, and (2) preparation of the sheet.

Used for cleansing.

<u>ADVANTAGE</u>

The product does not irritates skin, lathers well, keeps skin moist and resilient, and has good portability and stability.

WO 200294214-A+

di .

.

EXAMPLE

No relevant example given.

TECHNOLOGY FOCUS

Organic Chemistry - Preferred Composition: The detergent further contains (C) 5-50 wt.% of multi-valent alcohol, (D) a plant extract, pressed oil or distillation oil from carrots, aloe, peach leaves, lemon, olives, tea, coconuts etc, and a substance derived from animals like silk decomposed product, collagen decomposed product etc, and (E) extracts, pressed oil, or distilled oil selected from prunes, oranges, rose hips, wheat germs, blue berries etc, and (F) a compound selected from 29 specific compounds including acetic acid-d-alpha-tocopherol, vitamin A, retinol, ascorbic acid, and thiamine nitrate.

The detergent impregnates the surface area of the sheet substrate at 2-

50g/m², and the dry weight loss is 2-30 wt.%.

The surface of the substrate has fine pores having a size of 0.1-9 mm². The weight of the sheet is 20-120g/m².

(40pp2418DwgNo.0/0)

WO 200294214-A

(19) 世界知的所有権機関 国際事務局



- 1887 | 1874 | 1875 | 1876 | 1877 | 1877 | 1878 | 1877 | 1877 | 1877 | 1877 | 1877 | 1877 | 1877 | 1877 | 1877

(43) 国際公開日 2002 年11 月28 日 (28.11.2002)

PCT

(10) 国際公開番号 WO 02/094214 A1

(51) 国際特許分類7:

A61K 7/50, 7/02

(21) 国際出願番号:

PCT/JP02/03363

(22) 国際出願日:

2002年4月3日(03.04.2002)

(25) 国際出願の言語:

日本語

(26) 国際公開の言語:

日本語

(30) 優先権データ:

特願2001-148781 2001年5月18日(18.05.2001) JP 特願2001-252458 2001年8月23日(23.08.2001) JP 特願2001-363834

001-303634

2001年11月29日(29.11.2001) JP 特願2002-031848 2002年2月8日(08.02.2002) JP

(71) 出願人 *(*米国を除く全ての指定国について*)*: カネボウ株式会社 (KANEBO, LIMITED) [JP/JP]; 〒131-0031東京都 墨田区 墨田五丁目 1 7番 4号 Tokyo (JP).

(72) 発明者; および

(75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 齋藤 雅人 (SAITO,Masato) [JP/JP]; 〒256-0816 神奈川県 小 田原市 酒匂 2-3-1 3 Kanagawa (JP). 山下 嘉邦 (YAMASHITA,Yoshikuni) [JP/JP]; 〒259-0201 神奈 川県 足柄下郡 真鶴町真鶴 1 8 4 2-1 O Kanagawa (JP).

- (81) 指定国 (国内): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NO, NZ, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VN, YU, ZA, ZW.
- (84) 指定国 (広域): ARIPO 特許 (GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ特許 (AT, BE, CH, CY, DE, DK, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE, TR), OAPI 特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

規則4.17に規定する申立て:

— USのみのための発明者である旨の申立て (規則 4.17(iv))

添付公開書類:

— 国際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される 各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語 のガイダンスノート」を参照。

(54) Title: SHEET FOR CLEANING AND PROCESS FOR PRODUCING THE SAME

(54) 発明の名称: 洗浄用シート及びその製造方法

(57) Abstract: A sheet for cleaning characterized by comprising at least one sheet substrate selected among a nonwoven fabric, Japanese paper, film, foamed sheet, and knitted or woven fabric and coated or impregnated with a dry detergent comprising (a) 30 to 70 wt.% at least one surfactant selected from the group consisting of amphoteric surfactants and C₈₋₂₂ fatty acid amide propylamine oxides, provided that the total surfactant amount is 40 wt.% or larger, and (b) 1 to 15 wt.% polyoxyalkylene glyceryl ether (in which the alkylenes have 2 and/or 3 carbon atoms). It is characterized also in that just before use water or hot water is added to the sheet to cause it lather. The cleaning sheet lathers well and is excellent in denseness and stability of the lather and in detergency. It neither gives a stretched feeling to the skin after use nor irritates the skin. It is excellent in making the skin moist and slippery. It diminishes a dull appearance of the skin and heightens the luster and elasticity of the skin. It is excellent in portability and quality stability.

/続葉有/



(57) 要約:

本発明は、(a) 両性界面活性剤、炭素数8~22の高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドからなる群から選ばれる1種以上の界面活性剤を30~70質量%含み、且つ総界面活性剤量として40質量%以上、(b) ポリオキシアルキレングリセリルエーテル(アルキレンの炭素数は2及び/又は3)1~15質量%を含有する洗浄料が、不織布、和紙、フィルム、発泡体シートおよび編織布から選ばれる1種以上のシート基材に、乾燥した状態で塗布又は含浸されていることを特徴とする、使用時に水またはお湯を加え泡立てて使用することを特徴とする洗浄用シートを提供する。

本発明は、泡立ちが良好で、泡の緻密性や安定性に優れ、洗浄力にも優れ、使用後の肌の突っ張り感や刺激性がなく、肌のしっとり感や肌のつるつる感等に優れ、肌のくすみを低減させ、肌のつやや弾力性を高め、携帯性や品質の安定性に優れた洗浄用シートを提供する。

1

明細書

洗浄用シート及びその製造方法

技術分野

本発明は、泡立ちが良好で、泡の緻密性や安定性に優れ、洗浄力にも優れ、使用後の肌の突っ張り感や刺激性がなく、肌のしっとり感や肌のつるつる感等に優れ、肌のくすみを低減させ、肌のつやや弾力性を高め、携帯性や品質の安定性に優れた洗浄用シート及びその製造方法に関する。

背景技術

最近、シートに化粧料や洗浄料等を含浸させた1回で使いきるタイプのシート 状化粧料の開発が盛んである。

例えば、水溶性樹脂を用いた角栓の汚れを取るシート状パック料が、数多く商品化されている。このような製品は、使用時に適量の水をつけて樹脂を溶かし、肌に貼付した状態で、一定時間乾燥させた後、剥がすことにより、角栓の汚れをシートに付着させ、目で直接確認できることからその効果がはっきりとしているため、非常に人気がある。また、保湿化粧料やアニオン系界面活性剤を含浸させたウェットタイプのシート状化粧料や、水溶性高分子を用いゲル化させたシート状製品等が上市されている。

特に、メイク落しシートのようなウェットタイプの洗浄用シートは、1回の使いきりという点で使い易く、手軽にメイクを落とすことができることから簡便さが使用者に受け入れられ愛用者が増加している。

しかしながら、上記洗浄用シートは、通常の洗浄剤と比べて、初期の泡立ち、 泡の緻密性、泡の安定性や十分な洗浄力が得られなかったり、使用後に肌がべた ついたり、乾燥する等の問題があった。また、ウェットタイプの洗浄用シートは、 水分等の揮散を防ぎ品質を保持するためにはシートを気密性に優れた容器に常時 保管しなければならず、必ずしも携帯性や品質の保持性に優れたものとは言えな かった。

したがって、本発明の目的は、泡立ちが良好で、泡の緻密性や安定性に優れ、 洗浄力にも優れ、使用後の肌の突っ張り感や刺激性がなく、肌のしっとり感や肌 のつるつる感等に優れ、肌のくすみを低減させ、肌のつやや弾力性を高め、携帯 性や品質の安定性に優れた、洗浄用シートを提供することにある。

発明の開示

本発明者等は、このような状況に鑑み鋭意研究を重ねた結果、(a) 両性界面活性剤、炭素数8~22の高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドからなる群から選ばれる1種以上の界面活性剤を30~70質量%を含み、且つ全界面活性剤の量として40質量%以上、(b) ポリオキシエチレングリセリルエーテルを含有する洗浄料を、シート基材に、乾燥した状態で塗布又は含浸されていることを特徴とする洗浄用シートが、使用時に水またはお湯を加え泡立てて使用すると、泡立ちが良好で、泡の緻密性や安定性に優れ、洗浄力にも優れ、使用後の肌の突っ張り感や刺激性がなく、肌のしっとり感や肌のつるつる感等に優れ、肌のくすみを低減させ、肌のつやや弾力性を高め、また簡便性に優れ、水があればどこででも、使用できることを見出し、本発明を完成するに至った。

すなわち、本発明の第1の発明は、(a)両性界面活性剤、炭素数8~22の 高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドからなる群から選ばれる1種以上の界 面活性剤を30~70質量%含み、且つ総界面活性剤量として40質量%以上、

(b) ポリオキシアルキレングリセリルエーテル(アルキレンの炭素数は2及び/又は3)1~15質量%を含有する洗浄料が、不織布、和紙、フィルム、発泡体シートおよび編織布から選ばれる1種以上のシート基材に、乾燥した状態で塗布又は含浸されていることを特徴とする、使用時に水またはお湯を加え泡立てて使用することを特徴とする洗浄用シートである。

本発明の第2の発明は、さらに、洗浄料中に(b)多価アルコールを5~50 質量%含有することを特徴とする、請求項1記載の洗浄用シートである。

本発明の第3の発明は、さらに、洗浄料中に(d)カロット、アセロラ、桃の葉、アロエ、ムクロジ、マロニエ、レモン、カンゾウ、オリーブ、茶、ユズから

なる群から選ばれる植物の抽出物、圧搾油、蒸留油の少なくとも1種以上、及び /又はロイヤルゼリー、シルク分解物、コラーゲン分解物、ヒアルロン酸及びそ の塩、エラスチン分解物、ケラチン分解物からなる群から選ばれた動物由来物質 を少なくとも1種以上を含有することを特徴とする、請求項1または2に記載の 洗浄用シートである。

本発明の第4の発明は、さらに、洗浄料中に(e)プルーン、オレンジ、ロー ズヒップ、ハトムギ、発芽ハトムギ、ベニバナ、ホップ、小麦ハイガ、コメハイ ガ、月見草、ツバキ、ラズベリー、ブルーベリー、ワイルドベリー、キイチゴ、 高麗ニンジン、桃の果実、ペパーミント、サポンソウ、セージ、キクラゲ、海藻、 黒砂糖からなる群から選ばれる植物の抽出物、圧搾油、蒸留油の少なくとも1種 以上、(f)酢酸-dl $-\alpha$ -トコフェロール、ニコチン酸<math>-dl $-\alpha$ -トコフ ェロール、 $d1-\alpha$ ートコフェロール、 $d1-\sigma$ ートコフェロール、レチノール、 酢酸レチノール、パルミチン酸レチノール、ピタミンA油、β-カロチン、アス コルビン酸、アスコルビン酸ナトリウム、アスコルビン酸配糖体、L-アスコル ビン酸ステアリン酸エステル、L-アスコルビン酸硫酸エステル二ナトリウム、 ジパルミチン酸アスコルビル、パルミチン酸アスコルビル、シアノコバラミン、 エルゴカルシフェロール、コレカルシフェロール、ビオチン、チアミン塩酸塩、 チアミン硝酸塩、リボフラビン、リボフラビン酪酸エステル、ジカプリル酸ピリ ドキシン、ジパルミチン酸ピリドキシン、ジラウリン酸ピリドキシン、オロット 酸、メナジオンからなる群から選ばれる化合物の少なくとも1種以上を含有する ことを特徴とする請求項1または2に記載の洗浄用シートである。

本発明の第5の発明は、洗浄料が、シート基材の表面積に対して $2\sim50$ g/ m^2 含浸され、かつ乾燥減量が $2\sim10$ 質量%の乾燥状態にあることを特徴とする請求項 $1\sim4$ のいずれか1 項に記載の洗浄用シートである。

本発明の第6の発明は、シート基材の表面に細孔が形成され、各細孔の大きさが $0.1 \sim 9 \, \text{mm}^2$ であり、かつ該シート基材の質量が $2.0 \sim 1.2.0 \, \text{g/m}^2$ であることを特徴とする請求項 $1 \sim 5$ のいずれか 1 項に記載の洗浄用シートである。

本発明の第7の発明は、さらに、洗浄料中に、(g) 70~125℃で30~250秒の乾燥条件下でも保香性を有する香料を含有することを特徴とする請求

項1~6のいずれか1項に記載の洗浄用シートである。

本発明の第8の発明は、使用時に洗浄用シートに加える水又はお湯の質量が、 洗浄用シートの最終質量の $2\sim20$ 倍であり、かつ泡立ててから使用することを 特徴とする請求項 $1\sim7$ のいずれか1項に記載の洗浄用シートの使用方法である。

本発明の第9の発明は、請求項1~8のいずれか1項に記載の洗浄用シートの 製造方法であって、洗浄料と水及び/又はエチルアルコールを含有する洗浄料液 を、シート基材に、塗布又は含浸した後、乾燥して水及び/又はエチルアルコー ルを除去することを特徴とする洗浄用シートの製造方法である。

発明を実施するための最良の形態

以下、本発明の構成の詳細について説明する。

本発明において(a)成分として使用される両性界面活性剤、炭素数8~22 の高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドとしては、界面活性作用のあるものならいずれのものでも良い。両性界面活性剤、炭素数8~22の高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドは、泡立ちや洗浄性、突っ張り感がない使用感、洗浄料のシート基材への密着性や、界面活性剤の溶媒として用いるエタノール等の揮発性アルコール溶媒にも溶解し易く乾燥中での界面活性剤の結晶粉末が析出しない等の点から、本発明では両性界面活性剤、炭素数8~22の高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドが選択される。

両性界面活性剤としては、通常の両性界面活性剤であり、例えば、カルボキシベタイン型、アミドベタイン型、スルホベタイン型、ヒドロキシスルホベタイン型、アミドスルホベタイン型、ホスホベタイン型、アミノカルボン酸塩型、イミダゾリン誘導体型、アミドアミン型等の両性界面活性剤が挙げられる。

また、炭素数8~22の高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドとしては、 ラウリン酸アミドプロピルジメチルアミンオキシド、ミリスチン酸アミドプロピ ルジメチルアミンオキシド、パルミチン酸アミドプロピルジメチルアミンオキシ ド、オレイン酸アミドプロピルジメチルアミンオキシド、ステアリン酸アミドプロ ロピルジメチルアミンオキシド、イソステアリン酸アミドプロピルジメチルアミ ンオキシド等が挙げられる。特に、両性界面活性剤としては、炭素数11~17 Ť

À

のnーアルキル基を有する2ーアルキルーNーカルポキシメチルーNーヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタインが好ましい。

また、特に両性界面活性剤と炭素数8~22の高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドを併用することが特に好ましい。

両性界面活性剤及び/又は炭素数 $8\sim22$ の高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドの量としては、起泡性、洗浄性の点から、乾燥状態の洗浄料中への含有量としては、 $30\sim70$ 質量%である。30 質量%未満では、起泡性、洗浄性、洗顔後のしっとり感が不満足であり、また70 質量%を超えるとべたつき感がでてくる場合がある。

本発明では本発明の効果を損なわない範囲で、例えば適当なアニオン性界面活性剤、ノニオン性界面活性剤の1種、2種以上を好適な量で、例えば両性界面活性剤等に比べて少量にて用いることもできる。これら界面活性剤としては、脂肪酸石鹸、レーアシルスルホン酸塩、アルキルスルホン酸塩、アルキルアリルスルホン酸塩、アルキルナフタレンスルホン酸塩、アルキル硫酸塩、アルキルエーテル硫酸塩、アルキルアミド硫酸塩、アルキルリン酸塩、アルキルアミドリン酸塩、アルキロイルアルキルタウリン塩、Nーアシルアミノ酸塩、スルホコハク酸塩、パーフルオロアルキルリン酸エステル等のアニオン性界面活性剤、ラウリン酸アルカノールアミド、POEソルピタン脂肪酸エステル、POEグリセリン脂肪酸エステル、POE脂肪酸エステル等のノニオン性界面活性剤、またサポニン、糖系界面活性剤等の天然系界面活性剤を用いることもできる。本発明では、前記両性界面活性剤、炭素数8~22の高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドと他の上記界面活性剤の配合量の総量としては、起泡性、洗浄性の点から、乾燥状態の洗浄料中への含有量としては、40質量%以上で、その中でも40~80質量%が好ましい。

本発明で(b)成分として用いるポリオキシアルキレングリセリルエーテル(アルキレンの炭素数は2及び/又は3)とは、グリセリンに酸化エチレン及び/又は酸化プロピレンが付加した化合物であり、その総付加モル数として5~50が好ましい。特に好ましくは酸化エチレンの総付加モル数が5~50のものである。ポリオキシアルキレングリセリルエーテルとしては、ホリオキシエチレン(26

モルE. O. 付加)グリセリルエーテル、ポリオキシエチレン(24E. O. 付加)ポリオキシプロピレン(24モルP. O. 付加)グリセリルエーテル、ポリオキシプロピレン(10又は27モルP. O. 付加)グリセリルエテル等が挙げられ、好ましくはホリオキシエチレン(26モルE. O. 付加)グリセリルエーテル等のグリセリンに酸化エチレン(E. O.) が付加したものがある。本発明ではこれらの化合物を1種、または2種以上配合することによって、特に使用後の肌のつるつる感が得られ、また使用時に水と混合した時の発熱効果によって、洗浄性の向上と快適感が得られる。ポリオキシアルキレングリセリルエーテルの乾燥状態の洗浄料中への含有量としては、1~15質量%であり、この範囲であれば肌のつるつる感などが得られる。

また、本発明では、両性界面活性剤、炭素数 8~22の高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドの泡の緻密性と泡の経日安定性を改良し、界面活性剤のシート基材へ付着性を高め、且つ洗浄用シートを使用した後に、肌にしっとり感を付与するために、(c)成分として多価アルコールを配合することが好ましい。多価アルコールとしては、エチレングリコール、プロピレングリコール、1,3ープチレングリコール、ジプロピレングリコール、グリセリン、ポリグリセリン、ポリプロピレングリコール、グルコース、マルトース、マルチトール、蔗糖、フラクトース、ソルビトール、澱粉分解糖等が挙げられ、好ましくは水と混合した時に発熱効果も得られるエチレングリコール、プロピレングリコール、パリプロピレングリコール、グリセリン、ポリグリセリン、ポリエチレングリコール、ジプロピレングリコール、グリセリン、ポリグリセリン、ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコールである。これら多価アルコールは、1種または2種以上を、乾燥状態の洗浄料中への含有量としては、好ましくは5~50質量%配合される。5質量%未満では、泡の緻密性や泡の安定性が劣る場合があり、50質量%を超えるとべたつき感がでてくる場合がある。

両性界面活性剤、炭素数 $8 \sim 2$ 2 の高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドから選ばれる 1 種以上の界面活性剤を含む界面活性剤とポリオキシアルキレングリセリルエーテルを含む洗浄料の乾燥後のシート基材への塗布または含浸量としては、シートの面積に対しては、 $2 \sim 5$ 0 g/m²が好ましく、特に好ましくは

7~30g/m²である。また、洗浄シートの水、エチルアルコール等の揮発性 溶媒の残存量(以下、乾燥減量という)が組成物重量に対して2~30質量%の 範囲になるように乾燥することが好ましい。この範囲の乾燥状態であると製品が べとつくこともなく、洗浄料に配合される香料の気散も少ない。

また、本発明では、洗浄用シートの使用後に肌のつっぱり感がなく、肌をしっ とりさせる等のためには、(d)成分として、カロット(ニンジン)、アセロラ、 桃の葉、アロエ、ムクロジ、マロニエ、レモン、カンゾウ、オリーブ、茶、ユズ、 からなる群から選ばれる植物の抽出物、圧搾油、蒸留油の少なくとも1種以上、 及び/又はロイヤルゼリー、シルク分解物、コラーゲン分解物、ヒアルロン酸及 びその塩、エラスチン分解物、ケラチン分解物からなる群から選ばれた動物由来 .物質を少なくとも1種以上を洗浄料中に配合することによって、使用後のしっと り感がさらに得られるので配合することが好ましい。上記の植物の抽出物等は、 例えば植物の葉、花、果実、茎、根茎、全草等の各原料そのものをエチルアルコ ール、1,3-ブチレングリコール、プロピレングリコール、グリセリン、酢酸 エチル、アセトン、スクワラン等の有機溶媒、水、それらの混液で抽出した液、 抽出液の乾燥末であり有機溶媒、それらの混合液で抽出した抽出液、抽出液の乾 燥末またはデキストリンなどの賦型剤を用いたものである。または、動物原料の 分解生成物である。シルク分解物としてはシルクプロティンエキス、シルク抽出 物、シルクアミノ酸、シルクパウダー等として市販されているものであり、コラ ーゲン分解物としてはコラーゲンアミノ酸等として市販されているものであり、 エラスチン分解物としてはエラスチンアミノ酸等として市販されているものであ り、またケラチン分解物としてはケラチンアミノ酸等として市販されているもの である。これら(d)成分の総配合量としては、乾燥した洗浄料中に乾燥残分換 算で、好ましくは0.0001~10.0質量%である。

また、特に肌のくすみを低減させ、肌のつやや弾力性等を高めるためには、(e) プルーン、オレンジ、ローズヒップ、ハトムギ、発芽ハトムギ、ベニバナ、ホップ、小麦ハイガ、コメハイガ、月見草、ツバキ、ラズベリー、ブルーベリー、ワイルドベリー、キイチゴ、高麗ニンジン、桃の果実、ペパーミント、サボンソウ、セージ、キクラゲ、海藻、黒砂糖からなる群から選ばれる植物の抽出物、圧搾油、 蒸留油の少なくとも1種以上、(f)酢酸一d $1-\alpha$ ートコフェロール、ニコチン酸一d $1-\alpha$ ートコフェロール、d $1-\alpha$ ートコフェロール、d $1-\alpha$ ートコフェロール、d $1-\alpha$ ートコフェロール、 $1-\alpha$ 0 と $1-\alpha$ 0 に $1-\alpha$ 0 と $1-\alpha$ 0 に $1-\alpha$ 0 に 1

これら(e)成分と(f)成分の各々配合量としては、乾燥した洗浄料中に乾燥残分換算で、好ましくは0.0001~10.0質量%である。

本発明において洗浄料を塗布含浸させるために使用されるシート基材としては、 綿、麻、羊毛等の天然繊維、レーヨン、アセテート等のセルロース系繊維、ポリ エチレン、ポリプロピレン、ポリウレタン、ポリアクリル、ポリエステル、ポリ 塩化ビニリデン、ポリ塩化ビニル、ナイロン等の合成繊維等の繊維からなる不織 布、和紙、フィルム、発泡体シートおよび編織布が挙げられ、これらの単体物あ るいは複数以上の混合物であってもよい。

また必要に応じて、例えば不織布、フィルム、発泡体シート、和紙、編織布、 コットンの単層及びこれらの積層物で透水性であって水不溶解性あるいは水解性 を有するものであれば、公知のどのようなものでも用いることができる。そして これら単層または積層物はさらに植毛により繊維で覆ったり、凹凸のエンボス加 工したもの等の二次加工より、表面特徴を変えたものを使用することができる。 特に、多孔性不織布、和紙、編織布の細孔を有するシート基材、またはポリエチ レン、ポリプロピレン、ポリウレタン、ポリアクリル、ポリエステル、ポリ塩化 ビニリデン、ポリ塩化ビニル、ナイロン、ポリオレフィン等からなる多孔性フィ ルムや連続気孔を有する種々の材質(ポリウレタン、セルロース等)の発泡体シ ートの細孔を有するシート基材が好ましい。上記シート基材の中でも、特に多孔 性不織布、多孔性編織布が使用勝手の点から好ましい。

上記の多孔性不織布、和紙、多孔性フィルム、連続気孔を有する発泡体シート、または編織布の細孔を有するシート基材面に形成された各細孔の大きさは、洗浄料と水が自由に通過し、手で揉んだ時に起泡性を助ける程度の大きさであり、好ましくは $0.1\sim9\,\mathrm{mm^2}$ の範囲の水を透過する程度の孔の大きさであり、さらに好ましくは $0.2\sim5\,\mathrm{mm^2}$ である。シート基材の質量は $20\sim120\,\mathrm{g/m^2}$ であることが好ましい。この様な素材を使うことによって、特に使用時の泡立ちがよく、また洗浄用シートを広げやすく、手での把持性に優れ、使用後の肌の感触にも優れるので好ましい。水不溶性のものなら $50\sim100\,\mathrm{g/m^2}$ 、水解性のものなら $60\sim80\,\mathrm{g/m^2}$ のものが使用感やコストの点から特に好ましい。

本発明の洗浄用シートには、必要に応じ通常化粧料に使用されるその他の成分を適宜組み合わせて使用することが出来る。例えば、一般に賦形剤として使用されている、結晶セルロース、炭酸マグネシウム、第2リン酸カルシウム、第3リン酸カルシウム、リン酸ー水素カルシウム、リン酸マグネシウム、メタリン酸ナトリウム、水酸化アルミニウム、水酸化マグネシウム、ピロリン酸カルシウム、ピロリン酸カルシウム、ピロリン酸カルシウム、ピロリン酸、シスウンベル酸、コウジ酸、ヘキサメタリン酸ナトリウム、炭酸ナトリウム、乳酸カルシウム、乳酸カルシウム、硫酸亜鉛、ベンガラ、硫酸カルシウム、酸化チタン、ケイソウ土、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ケイ酸アルミニウム、カオリン、亜鉛華;防腐剤、色素;本発明の必須成分以外の植物動物由来物質、ビタミンC及びその誘導体、グリチルリチン及びその誘導体、アーアミノ酪酸等の薬剤;無水ケイ酸、含水ケイ酸、石膏、焼き石膏、炭酸マグネシウム、硫酸マグネシウム、塩化マグネシウム、ゼオライト、ハイドロタルサイト、合成珪酸アルミニウム等の発熱剤;トウガラシチンキ、トウガラシエキス、ショウキョウチンキ、ショウキョウエキス、カプサイシン、イソバニリン誘導体、ニコチン酸類、

バニリルアルコールアルキルエーテル等の温感剤;増粘剤、保湿剤等の化粧品原料基準、化粧品種別配合基準、食品添加物公定書、日本薬局方及び化粧品原料と し使用前例があるものなら必要に応じて適宜配合してよい。

本発明の洗浄用シートでは、好ましくは70~125℃で30~250秒の乾燥条件下でも保香性を有する香料を洗浄剤中に配合して、シート基材に塗布含浸させることによって、使用時に心地よさと精神的効果が得られるのでシート基材に香料を塗布含浸させることが好ましい。香料の種類としては、乾燥などでの気散が少なく耐熱性の優れた固形石鹸用香料等が選ばれる。70~125℃で30~250秒の乾燥条件に耐え、保留性、残香性に優れる香料としては、下記ウッディアンバー、サンダルノート、ムスク、フローラルの各種香料を含むものである。これら香料は1種または2種以上を適宜選択し香料として洗浄剤中に配合する。また、洗浄剤中に香料を配合した洗浄剤をシート基材に塗布含浸させる方法だけでなく、洗浄剤と香料を別々にシート基材に塗布含浸させることもできる。

(ウッディアンバー)

1-(2-t-7)チルシクロヘキシルオキシ)-2-7タノール(アンバーコア)、 3α , 6, 6, $9\alpha-$ テトラメチルドデカハイドロナフト〔2, 1-b〕 フラン(アンプロキサン)、7-アセチル-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8-オクタヒドロ-1, 1, 6, 7-テトラメチルナフタレン(イソ・イー・スーパー)、7-ジクロヘキサデセノリド(アンプレトリッド)、セドリルメチルエーテル(セドラアンバー)、セドリルメチルケトン(ベルトフィックス)、2-(2,4-ジメチルシクロヘキシ-3-エン-1-イル)-5-メチル-5-(1-メチルプロピル)-1, 3-ジオキサン(カラナール)等である。これらの香料中の配合量は好ましくは $20\sim50$ 質量%である。

(サンダルノート)

サンダルウッドオイル、 α - サンタロール、 β - サンタロール、3 - メチルー 5 - (2,2,3 - トリメチル - 3 - シクロペンテン - 1 -

 $2-オール(ポリサントール)、 <math>2-メチル-4-(2,2,3-トリメチル-3-シクロペンテン-1-イル)-2-プテン-1-オール(サンダルマイソールコア)等である。これらの香料中の配合量は好ましくは<math>1\sim20$ 質量%である。(ムスクノート)

(フローラルノート)

ローズオイル、ローズアブソリュート、ゼラニュウムオイル、4-(4-E)ロキシー4-メチルーペンチルー3-シクロヘキセンー1-カルボキシアルデヒド (リラール) 等である。これらの香料中の配合量は好ましくは $20\sim60$ 質量%である。

上記香料の乾燥した洗浄料中への配合量としては、好ましくは0.001~0. 8質量%である。

また、本発明では、界面活性剤、植物抽出物、香料が製品の乾燥工程や製品の保存中に変質、変色するのを防止するために、酢酸トコフェロール、没食子酸またはそのエステル、ジブチルヒドロキシトルエン、亜硫酸水素ナトリウム、アスコルビン酸またはその誘導体、エリソルビン酸またはその塩、ブチルヒドロキシアニソール等の酸化防止剤;エデト酸およびその塩、酒石酸、クエン酸およびその塩、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム等の金属封鎖剤を、乾燥した洗浄料の中に0.001~0.5質量%配合することが好ましい。特に酸化防止剤を配合することが好ましい。

本発明の洗浄用シートの製造方法としては、例えば、両性界面活性剤、炭素数 8~22の高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドから選ばれる1種以上を含 む界面活性剤と、ポリオキシアルキレングリセリルエーテルを適量含む洗浄剤を 3~4倍量の水及び/又はエチルアルコールに溶解して得られた洗浄料液をシー ト基材の片面又は両面に、ローラーや噴霧装置で洗浄料液を塗布又は含浸じた後、 100~125℃で30~180秒の乾燥条件で乾燥してエチルアルコールと水 を除去することよって得られる。エチルアルコールは溶媒としての役目として以 外に、洗浄料液の消泡効果と乾燥性の向上のために配合することが好ましい。エ チルアルコールの配合量としては、洗浄料液中に5~30質量%配合されること が好ましい。乾燥減量を調べる方法としては、得られた洗浄用シートを、105℃ で3時間乾燥させ、このときの組成物重量の減量を目安とし、乾燥の程度を表す。 このときの乾燥減量が組成物重量に対して、2~30質量%の範囲とするのが、 使用時の清潔感、扱いやすさ、微生物汚染から防衛するために好ましい。また、 製品の香りや使用時香りの強さからも乾燥減量が2質量%以上となる乾燥条件で 乾燥することが好ましい。そして、不織布等のシートに塗布又は含浸し、乾燥し た製品は、密封容器に充填し、外気の水分による影響を防ぐのが好ましい。さら に、使用時に加える水及びお湯の量は充分な心地よい香りと泡立ちをえる為には 製品重量の2~20倍量の水が好ましい。本発明の洗浄用シートは、顔、髪、全 身などの洗浄に使用され、携帯用としても利便である。

実施例

以下、実施例及び比較例に基づき本発明を詳細に説明する。

実施例1 比較例1,2

下記表 1 に示す乾燥後の最終組成からなる洗浄料を含浸した洗浄用シートを作製した。シート作製に当たり表 1 からなる組成の水以外の成分を 3 . 5 倍量の水とエチルアルコール(洗浄料液中に 2 の質量%)に溶解させ、ポリエステル、レーヨン、ポリプロピレンからなる多孔性の不織布(8 の g/m^2 、1 . 5 mm× 2 . 0 mmの細孔:日本バイリーン製)に含浸させ、8 5 \mathbb{C} で 1 の分間乾燥機に

て乾燥し100g/m²の乾燥減量(105℃、3時間、以下同様)5.0質量%の製品を得た。同様にして両性界面活性剤量の少ないもの(比較例1)、ポリオキシエチレングリセリルを配合しないものを比較例2とし、乾燥機にて乾燥し100g/m²で乾燥減量が5.0質量%になるように製品を調製した。これらを16cm×16cm(約2.5g:不織布2.0g、洗浄料0.5g)になるように裁断した。社内パネラー20名の協力を得て、上記製品を用い洗顔し、使用後の評価をアンケート調査にて、各項目5点評価で評価した。アンケート項目は泡立ちの良さ、泡の緻密性・安定性、洗浄性、洗顔後のしっとり感、つるつる感について5点満点にて評価し、点数の平均を示す。点数が高いほど評価が優れている(以下のアンケート調査も同様である。)。

配合量(質量部)

(表1)

原料成分

LONG PROJ	BULE (AEH)							
	実施例 :	1	比較例) 1	比較例	2		
2-アルキル-N-カルボキシ								
メチルーN-ヒドロキシエチル								
イミダゾリニウムベタイン	45. (С	10.	0	45.	0		
ヤシ油脂肪酸アミド								
プロピルベタイン	15. (C	5.	0	15.	0		
ヤシ油脂肪酸サルコシンナトリウム	. –		40.	0				
1,3-ブチレングリコール	10. (O	10.	0	10.	0		
ポリエチレングリコール400	10.0)	10.	0	10.	0		
ポリエチレングリコール1500	7. ()	7.	0	7.	0		
プロピレングリコール	4. ()	4.	0	7.	0		
ポリオキシエチレン					·			
グリセリル(26E.O.)	3. ()	3.	0	_			
イソプロピルメチルフェノール	0. (2	0.	0 2	0.	0		

WO 02/094214 PCT/JP02/03363

11

٤	14					
クエン酸	0.	3	0.	3	0.	3
クエン酸ナトリウム	0.	0 2	0.	0 2	0.	0 2
パラペン	0.	2	0.	2	0.	2
酢酸-dl-α-トコフェロール	0.	2	0.	2	0.	2
エデト酸2ナトリウム	0.	0 2	0.	0 2	0.	0 2
水	5.	0	5.	0	5.	0
計	99.	7 6	94.	7 6	99.	7 6

下記表2のアンケート結果から、本発明の実施例1の製品は、比較例1,2と 比べ諸特性の全てにわたり優れていることが明らかである。

	実施例1	比較例1	比較例 2
<u> </u>	4. 0	3. 2	3. 8
泡の緻密性・安定性	3.8	3. 6	3. 7
洗浄性(メイクの落ち)	3. 5	2. 9	3. 2
洗顔後のしっとり感	3. 7	2. 5	3. 0
洗顔後のつるつる感	3. 9	3. 2	2. 5

実施例2,3 比較例3

(表2)

減量が5質量%になるように製品を調製した。これらを16cm×16cm(約2.5g:不織布2.0g、洗浄料0.5g)になるように裁断した。社内パネラー10名の協力を得て、上記製品を用い洗顔し、使用後の評価をアンケート調査にて評価した。アンケート項目は泡立ちの良さ、香りの良さ、洗浄性、使用後の突っ張り感のなさ、しっとり感、べたつき感について評価した。

尚、以下の実施例 2 , $4 \sim 1$ 7、比較例 $3 \sim 6$ で使用した香料は下記表 3 の組成のものである。

(表3)

(香料名)	(質量部)
リナロール	5 0
メチルジヒドロジャスモナート	100
αーヘキシルシンナミックアルデヒド	8 0
1−(2−t−プチルシクロヘキシルオキシ)−2	
ープタノール (アンパーコア)	1 0
3α, 6, 6, 9αーテトラメチルドデカハイドロナフト	
〔2, 1-b〕フラン(アンプロキサン)10%	1 0
7-アセチル-1,2,3,4,5,6,7,8-オクタヒドロー	
1,1,6,7-テトラメチルナフタレン	
(イソ・イー・スーパー)	1 3 0
7 - シクロヘキサデセノリド(アンブレトリッド)	1 0
セドリルメチルエーテル(セドラアンバー)	2 0
セドリルメチルケトン(ベルトフィックス)	6 0
2-(2,4-ジメチルシクロヘキシ-3-エン-1-イル)
-5-メチル-5-(1-メチルプロピル)-1,3	
ージオキサン(カラナール)	5
サンダルウッドオイル	2 5

α - τ γ	5	
βーサンタロール	5	
3 - メチル - 5 - (2, 2, 3 - トリメチル - 3 -		
シクロペンテンー1ーイル)ーペンタンー		
2-オール(サンダロア)	5	
2-エチルー(2,2,3-トリメチル-3-シクロペンテン-		
トイル)-2-プテン-1-オール(バクダノール)	5	
3,3ジメチルー5ー(2,2,3ートリメチルー3ー		
シクロペンテン-1-イル)-4-ペンテン-		
2ーオール(ポリサントール)	1 0	
2ーメチルー4ー(2,2,3ートリメチルー3ー		
シクロペンテン-1-イル)-2-ブテン-1		
ーオール (サンダルマイソールコア)	1 0	
3 – メチルシクロペンタデカノン(ムスコン)10%	5	
9-シクロペンタデセン-1-オン(シベトン)10%	5	
シクロペンタデカノン	5	
シクロペンタデカノリド	1 0	
5 – シクロヘキサデセンー 1 – オン(TMII)	2 0	
エチレンブラシレート(ムスクT)	2 0	
エチレンドデカンジオエート(C14ムスク)	5	
5-ターシャリープチルー1,2,3トリメチルー4,6-		
ジニトロベンゼン(ムスクチベチン)	1 0	
6-アセチル1,1,2,3,3,5ヘキサメチルインダン		
(ファントリッド)	5	
4-アセチルジメチル-6-t-ブチル11ジメチルインダン		
(セレストリッド)	5	
6 アセチルー 1, 1, 2, 4, 4, 7 ーヘキサメチルテトラリン		
(トナリッド)	1 0	
ヘキサメチルヘキサヒドロ, シクロペンタベンゾピラン		

WO 02/094214 PCT/JP02/03363

17

4, 6, 6, 7, 8, 8 (ガラクソリッド)	100
ローズオイル	1 0
ローズアブソリュート	1 0
ゼラニュウムオイル	5 0
4-(4-ヒドロキシ-4-メチルーペンチル-3-	
シクロヘキセンー1-カルボキシアルデヒド(リラール)	8 0
ベンジルアセテート	3 0
p-t-プチルーαーメチルヒドロシンナミックアルデヒド	
(リリアール)	8 0
計	1 0 0 0

(表4)

原料成分 配合量(質量部)

•						
	実施例	2 片	:較例	3	実施例	13
2-アルキル-N-カルボキシ						
メチルーNーヒドロキシエチル						
イミダゾリニウムベタイン	45.	0 2	0.	0	40.	0
ヤシ油脂肪酸アミド						
プロピルペタイン	15.	0 1	0.	0	15.	0
1, 3-ブチレングリコール	10.	0 2	5.	0	10.	0
ポリエチレングリコール400	10.	0 2	5.	0	10.	0
ポリエチレングリコール1500	7.	0	7.	0	12.	0
プロピレングリコール	4.	0	4.	0	4.	0
ポリオキシエチレン						
グリセリル(26E.O.)	3.	0	3.	0	3.	0
イソプロピルメチルフェノール	0.	0 2	0.	0 2	0.	0
クエン酸	0.	3	0.	3	0.	3

WO 02/094214 PCT/JP02/03363

18

クエン酸ナトリウム	0.02	0.02	0.02
パラベン	0. 2	0.2	0.2
シルクプロティンエキス	0. 1	0. 1	
カロットエキス	0. 1	0. 1	
レモンエキス	0.1	0.1	-
香料	0.3	0.3	_
酢酸- d 1 - α - トコフェロール	0. 2	0. 2	0.2
エデト酸2ナトリウム	0.02	0.02	0.02
水 .	5. 0	5. 0	5. 0

計 100.36 100.36 99.76

下記表5のアンケート結果から、本発明の実施例2,3の製品は、香りの点以外では、比較例3と比べ総合的に優れていることが明らかである。

(表5)

実施例2 比較例3 実施例3

泡立ちの良さ	4. 0	2. 3	3. 3
香りの良さ	3. 2	3. 1	1. 3
洗浄性(メイクの落ち)	3. 5	2. 2	3. 5
使用後の突っ張り感のなさ	3. 6	3. 6	3. 0
しっとり感	3. 7	3. 7	3. 2
べたつき感無し	3.8	2. 5	3. 4

実施例4~7

下記表6に示す乾燥後の最終組成の洗浄料が含浸された洗浄用シートを作製した。シート作製に当たり表6からなる水以外の組成比の成分を3.5倍量の水とエチルアルコール(洗浄料液中に20質量%)に溶解させ、この液をレーヨン70%、パルプ30%からなる80g/m²の重量の不織布(1.0mm×1.5

mmの細孔、三昭紙業社製)にスプレーにて塗布し、95℃、10分間乾燥機にて乾燥し、100g/m²の塗布量とし、これを16cm×16cm(約2.5g:不織布2.0g、洗浄料0.5g)になるように裁断し、乾燥減量5.0g量%の実施例4の製品を得た。同様にして実施例5として洗浄料の塗布量の少ないものである、不織布質量に対して7.5質量%の洗浄料付着量となる86g/m²で、乾燥減量が7質量%である製品を調製した。また、実施例6として乾燥減量が1.5質量%のもの、実施例7として乾燥減量が1.5質量%のものを作製し、これらを同様に16cm×16cmになるように裁断した。これら製品について、社内パネラー10名の協力を得て、洗顔に連用し、使用後の評価をアンケート調査した。

(表6)

原料成分	配合量	上(質量部)
2-アルキル-N-カルポキシ		
メチルーNーヒドロキシエチル		
イミダゾリニウムベタイン	40.	0
ラウロイルメチルーβ-アラニン		
ナトリウム液	15.	0
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	5.	0
ポリエチレングリコール 2 0 0	10.	0
ポリエチレングリコー1500	10.	0
プロピレングリコール	4.	0
ポリオキシエチレン		
グリセリル (26E.O.)	10.	0
イソプロピルメチルフェノール	0.	0 2
クエン酸	0.	3
クエン酸ナトリウム	0.	0 2
パラベン	0.	2

アセロラエキス	0. 1
カンゾウエキス	0. 1
桃の葉エキス	0. 1
アロエエキス	0.1
レモンエキス	0. 2
香料	0.3
パルミチン酸レチノール	0.05
酢酸-d1-α-トコフェロール	0. 1
L-アスコルビン酸硫酸エステルニナトリウム	0.05
エデト酸2ナトリウム	0.02
水	5. 0
計	100.66

アンケートの結果を表7に示す。

(表7)

	実施	例4	実施例 5		実施例 5		実施例 5		列 5 実施例		実施例 6		実施例 '	
扱いやすさ	4.	0	3.	8	4.	0	2.	1						
泡立ちの良さ	4.	5	2.	3	3.	3	4.	5						
香りの良さ	3.	2	3.	1	1.	6	3.	2						
洗浄性(メイクの落ち)	3.	5	2.	1	3.	5	3.	2						
使用後の突っ張り感のなさ	3.	6	3.	0	3.	1	3.	2						
しっとり感	3.	7	2.	4	3.	0	3.	7						
総合評価	4.	0	3.	1	3.	8	3.	1						

実施例8、9

前記の表6に示す乾燥後の洗浄料組成からなる洗浄用シートを作製した。シート作製に当たり表6からなる水以外の組成比の成分を3.5倍量の水とエチルア

ルコール (洗浄料液中に 20 質量%) に溶解させ、この液をレーヨン70 %パルプ 30 %からなる 80 g/m²の重量の多孔性不織布(1.0 mm×1.5 mmの細孔、三昭紙業社製)に含浸させ、100 ℃、10 分間乾燥機にて乾燥し10 0 g/m²の製品を得た。同様にして実施例 9 としてレーヨン70 %、パルプ 3 0 %からなる 80 g/m²の重量のプレーンタイプで、孔を透して光が透過して水が自由に透過する細孔がない不織布に同様の洗浄料を塗布し、乾燥減量が 7 質量%のものを作製した。これらを 50 c m×16 c m(約7.8 g:不織布 6.3 g、洗浄料 1.5 g)になるように裁断し、社内パネラー 10 名の協力を得て、得られた製品を、顔、髪、体の全身に連用し、使用後の評価をアンケート調査にて、各項目 5 点評価で評価した。その結果を表 8 に示す。

(表8)

評価項目	実施例8	実施例9
泡立ちの良さ	4. 2	3. 4
洗浄性(体)	4. 2	2. 7
使用後の突っ張り感のなさ	3. 6	2. 4
しっとり感(体)	3. 2	2.6
総合評価	4. 3	2. 6

表8の結果から明らかのように、実施例8は実施例9と比べ、髪、顔、全身を洗浄するのに優れた洗浄剤である。

実施例10 比較例4~6

下記表 9 に示す乾燥後の最終組成からなる洗浄料を含浸した洗浄用シートを作製した。シート作製に当たり表 9 からなる組成の成分を 3 . 5 倍量の水に溶解させ、ポリエステル、レーヨン、ポリプロピレンからなる多孔性の不織布(8 0 g / m^2 、1 . 5 $mm \times 2$. 0 mm の細孔:日本バイリーン製)に含浸させ、8 5 $\mathbb C$ で 1 2 % 間乾燥機にて乾燥し、1 0 0 g / m^2 で乾燥減量(1 0 5 $\mathbb C$ 、3 時間、

WO 02/094214 PCT/JP02/03363

以下同様)8.0質量%の実施例10の製品を得た。同様にして、酢酸トコフェロール、酢酸レチノール、アスコルビン酸、シアノコバラミン、エルゴカルシフェロール、ビオチン、チアミン酢酸塩、ジカプリン酸ピリドキシン、オロット酸、メナジオン、を配合しないものを比較例5とし、乾燥機にて乾燥し100g/m²で乾燥減量が8.0質量%になるように製品を調製した。また、比較例6として比較例5でプルーン抽出液とオレンジ抽出液を含まないものを比較例5に準じ調製した。これらを16cm×16cm(約2.5g:不織布2.0g、洗浄料0.5g)になるように裁断した。社内パネラー20名の協力を得て、上記製品を用い約2週間1日1回洗顔し(マッサージしながら使用)、使用後の評価をアンケート調査にて、各項目5点評価で評価した。アンケート項目は泡立ちの良さ、香りの良さ、洗浄性、使用後の突っ張り感のなさ、しっとり感、肌のくすみの改善、肌のつや、弾力性、総合評価(刺激感など)について5点満点にて評価し、点数の平均を示す。点数が高いほど評価が優れている(以下のアンケート調査も同様である。)。

(表9)

原料		
カス ルギ	DX.71	

配合量(質量部)

にまたは1

いまなるに

年本を与って

•	美.他例 1 0		比較例 5					
2-アルキル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロ								
キシエチルイミダゾリニウムベタイン	45.0	20.0	45.0					
ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタイン	15.0	10.0	15.0					
1,3-プチレングリコール	10.0	25.0	10.0					
ポリエチレングリコール400	10.0	25.0	10.0					
ポリエチレングリコール1500	7. 0	7. 0	7. 0					
プロピレングリコール	4. 0	4. 0	4. 0					
ポリオキシエチレン								
グリセリル (26E.O.)	3. 0	3. 0	3. 0					
イソプロピルメチルフェノール	0.02	0.02	0.02					

クエン酸	0.3	0.3	0.3
クエン酸ナトリウム	0.02	0.02	0.02
パラベン	0. 2	0.2	0.2
酢酸- d l - α-トコフェロール	0.1	0. 1	_
酢酸レチノール	0.1	0. 1	_
アスコルビン酸	0. 1	0. 1	_
シアノコバラミン	0.1	0. 1	_
エルゴカルシフェロール	0.05	0.05	_
ピオチン	0.05	0.05	_
チアミン塩酸塩	0.05	0.05	_
ジカプリル酸ピリドキシン	0.01	0.01	_
オロット酸	0.01	0.01	
メナジオン	0.01	0.01	
プルーン抽出液	0.1	_	0.2
オレンジ抽出液	0. 1	_	0.2
香料	0.2	0.2	0. 2
エデト酸2ナトリウム	0.02	0.02	0.02
水	8. 0	8. 0	8. 0
		ت کریں جا کا نادیع ہے ہے کا داروں ہ	

計 103.54 103.34 103.16

下記表10のアンケート結果から、本発明の実施例10の製品は、比較例 $4\sim6$ と比べ諸特性の全てにわたり優れていることが明らかである。

(表10)

	実施例10	比較例4	比較例 5	比較例6	
				<u></u>	-
泡立ちの良さ	4. 1	2. 4	3. 2	3. 2	
香りの良さ	3. 2	3: 0	3. 1	3. 2	
洗浄性 (メイクの落ち)	3. 5	2. 2	3. 5	3. 5	

WO 02/094214 PCT/JP02/03363

24

使用後の突っ張り感のなさ	3. 6	3. 5	2. 8	2. 9
しっとり感	3. 8	3. 7	3. 0	3. 0
くすみの低減	3. 5	3. 1	2. 7	2. 5
肌のつや	3. 9	3. 1	3. 2	2. 8
弾力性	4. 1	2. 9	2. 9	2. 7
総合評価	4. 0	3. 1	2. 9	2. 8

実施例11

下記表 11に示す乾燥後の最終組成の洗浄料が含浸された洗浄用シートを作製した。シート作製に当たり表 11からなる組成の成分を 3. 5 倍量の水に溶解させ、この液をレーヨン 60%、パルプ 40% からなる 80 g/m²の重量の不織布(1.0 mm×1.5 mmの細孔、三昭紙業社製)にスプレーにて塗布し、95%、11 分間乾燥機にて乾燥し 100 g/m²の塗布量とし、これを 16 c m×16 c m(約 2. 5 g:不織布 2. 0 g、洗浄料 0. 5 g)になるように裁断し、実施例 11 の製品を得た。製品について、社内パネラー 20 名の協力を得て、洗顔に連用し、使用後の評価をアンケート調査した(表 13)。

和人島 (岡島如)

(表11)

四条公司

配合革(其革命)
40.0
15.0
5. 0
10.0
10.0
4. 0
10.0

クエン酸ナトリウム 0.02 パラペン 0.2 ニコチン酸ーd 1 - αートコフェロール 0.2 パルミチン酸レチノール 0.0001 アスコルビン酸ナトリウム 0.3 コレカルシフェロール 0.001 ビオチン 0.03 チアミン硝酸塩 0.005 リボフラビン 0.01 ジパルミチン酸ピリドキシン 0.01 メナジオン 0.01 ローズヒップエキス 0.05 ホップエキス 0.05 小麦ハイガ油 0.05 ハトムギエキス 0.05 香料 0.4 エデト酸 2ナトリウム 0.02 水 5.0	1.0.0	. 7 7 1
クエン酸ナトリウム0.02パラベン0.2ニコチン酸ーd 1 - αートコフェロール0.2パルミチン酸レチノール0.001アスコルビン酸ナトリウム0.3コレカルシフェロール0.001ピオチン0.03チアミン硝酸塩0.005リボフラビン0.01ジパルミチン酸ピリドキシン0.01メナジオン0.1ローズヒップエキス0.05ホップエキス0.05小麦ハイガ油0.05不合料0.05香料0.05	5. 0)
クエン酸ナトリウム0.02パラベン0.2ニコチン酸ーd 1 - αートコフェロール0.2パルミチン酸レチノール0.001アスコルビン酸ナトリウム0.3コレカルシフェロール0.001ピオチン0.03チアミン硝酸塩0.005リボフラビン0.01ジパルミチン酸ピリドキシン0.01メナジオン0.01ローズヒップエキス0.1ベニバナエキス0.05小麦ハイガ油0.05ハトムギエキス0.05	ト酸2ナトリウム 0.0	2
クエン酸ナトリウム0.02パラベン0.2ニコチン酸ーd 1 - αートコフェロール0.2パルミチン酸レチノール0.001アスコルビン酸ナトリウム0.3コレカルシフェロール0.001ピオチン0.03チアミン硝酸塩0.005リボフラビン0.01ジバルミチン酸ピリドキシン0.01メナジオン0.01ローズヒップエキス0.1ペニバナエキス0.05小麦ハイガ油0.05	0.4	Ĺ
クエン酸ナトリウム0.02パラベン0.2ニコチン酸ーd 1 - αートコフェロール0.2パルミチン酸レチノール0.001アスコルビン酸ナトリウム0.3コレカルシフェロール0.001ピオチン0.03チアミン硝酸塩0.005リボフラビン0.01ジパルミチン酸ピリドキシン0.01メナジオン0.01ローズヒップエキス0.1ベニバナエキス0.05ホップエキス0.05	ムギエキス 0.0	5
クエン酸ナトリウム0.02パラベン0.2ニコチン酸ーd 1 - αートコフェロール0.2パルミチン酸レチノール0.001アスコルビン酸ナトリウム0.3コレカルシフェロール0.001ピオチン0.005リボフラビン0.001ジパルミチン酸ピリドキシン0.01メナジオン0.01ローズヒップエキス0.05ペニバナエキス0.05	ハイガ油 0.0) 1
クエン酸ナトリウム0.02パラベン0.2ニコチン酸ーd 1 - αートコフェロール0.2パルミチン酸レチノール0.001アスコルビン酸ナトリウム0.3コレカルシフェロール0.001ピオチン0.005リボフラビン0.005リボフラビン0.01ジパルミチン酸ピリドキシン0.01メナジオン0.01ローズヒップエキス0.1	プエキス 0.0) 5
クエン酸ナトリウム0.02パラベン0.2ニコチン酸ーd 1 - αートコフェロール0.2パルミチン酸レチノール0.001アスコルビン酸ナトリウム0.3コレカルシフェロール0.001ビオチン0.03チアミン硝酸塩0.005リボフラビン0.001ジパルミチン酸ピリドキシン0.01メナジオン0.01	パナエキス 0.0) 5
クエン酸ナトリウム0.02パラペン0.2ニコチン酸ーd 1 - αートコフェロール0.2パルミチン酸レチノール0.001アスコルビン酸ナトリウム0.3コレカルシフェロール0.001ピオチン0.03チアミン硝酸塩0.005リボフラビン0.001ジパルミチン酸ピリドキシン0.01	ズヒップエキス 0.1	L
クエン酸ナトリウム0.02パラベン0.2ニコチン酸ーd 1 - αートコフェロール0.2パルミチン酸レチノール0.001アスコルビン酸ナトリウム0.3コレカルシフェロール0.001ビオチン0.03チアミン硝酸塩0.005リボフラビン0.001	ジオン 0.0) 1
クエン酸ナトリウム0.02パラベン0.2ニコチン酸ーd 1 - αートコフェロール0.2パルミチン酸レチノール0.001アスコルビン酸ナトリウム0.3コレカルシフェロール0.001ビオチン0.03チアミン硝酸塩0.005	ルミチン酸ピリドキシン 0.0) 1
クエン酸ナトリウム0.02パラベン0.2ニコチン酸ーd l - αートコフェロール0.2パルミチン酸レチノール0.001アスコルビン酸ナトリウム0.3コレカルシフェロール0.001ビオチン0.03	フラビン 0.0	0 0 1
クエン酸ナトリウム0.02パラベン0.2ニコチン酸ーd 1 - αートコフェロール0.2パルミチン酸レチノール0.001アスコルビン酸ナトリウム0.3コレカルシフェロール0.001	ミン硝酸塩 0.0	0 0 5
クエン酸ナトリウム 0.02 パラベン 0.2 こコチン酸一 $d 1 - \alpha$ $- h$ $1 - \alpha$ 0.02 $- \alpha$ $- \beta$ $1 - \alpha$	チン 0.0	3
クエン酸ナトリウム 0.02 パラベン 0.2 ニコチン酸-dl-α-トコフェロール 0.2 パルミチン酸レチノール 0.0001	カルシフェロール 0.0	0 0 1
クエン酸ナトリウム 0.02 パラベン 0.2 ニコチン酸-d1-α-トコフェロール 0.2	コルビン酸ナトリウム 0.3	3
クエン酸ナトリウム0.02パラベン0.2	ミチン酸レチノール 0.0	0 0 0 1
クエン酸ナトリウム 0.02	チン酸—d 1 - α—トコフェロール 0.2	2
	ベン 0. 2	2
クエン酸 0.2	ン酸ナトリウム 0.0	2
	ン酸 0.2	3 .
イソプロピルメチルフェノール 0.02	プロピルメチルフェノール 0.0	2

計

100.6771

実施例12~15

下記表 12 に示す乾燥後の最終組成の洗浄料が含浸された洗浄用シートを作製した。シート作製に当たり表 12 からなる組成の成分を 3.5 倍量の水に溶解させ、この液をレーヨン 60%、パルプ 40% からなる 80 g/m²の重量の不織布(1.0 mm×1.5 mmの細孔、三昭紙業社製)にスプレーにて塗布し、9

5 \mathbb{C} 、 11 分間乾燥機にて乾燥し100 g/m²の塗布量とし、これらを16 c m×16 c m(約2. 5 g:不織布2.0 g、洗浄料0.5 g)になるように裁断し、実施例12 から15 の製品を得た。これら製品について、社内パネラー20名の協力を得て、洗顔に連用し、使用後の評価をアンケート調査した(表13)。

(表12)

配合量(質量部)

原料成分	実施例 1	2 3	実施例 1	3 :	実施例 1 	4	実施例 1 5
ラウリン酸アミドプロピルアミン	,						
オキシド	50.	0	40.	0	30.	0	20.0
ラウロイルメチルーαーアラニン	,						
ナトリウム	5.	0	-		_		
ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタ	イン5.	0	-		15.	0	20.0
β - ラウリルアミノプロピオン酸	2						
ナトリウム	_		10.	0	_		5. 0
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	5.	0	· –		_		_
ヤシ油脂肪酸メチルアラニン							
ナトリウム			· 		5.	0	5. 0
ポリオキシエチレン (5) ヤシ油	l脂肪酸						
ジエタノールアミド			5.	0	_		_
ポリオキシエチレンラウリン酸							
モノエタノールアミド	_		5.	0	5.	0	5. 0
ラウリン酸アミドプロピル							
ベタイン液			5.	0	10.	0	10.0
ポリエチレングリコール200	10.	0	同左		同左		同左
ポリエチレングリコール1500	10.	0	同左		同左		同左
プロピレングリコール	4.	0	同左		同左		同左
ポリオキシエチレン							

27

グリセリル (26E.O.)	10.	0	同左	同左	同左
イソプロピルメチルフェノール	0.	0 5	同左	同左	同左
クエン酸	0.	3 5	同左	同左	同左
クエン酸ナトリウム	0.	0 2	同左	同左	同左
パラペン	0.	2	同左	同左	同左
d1-αートコフェロール	0.	1	0.1	-	
d l - σートコフェロール	_		_	0.1	0.1
ビタミンA油	0.	0 1	0.01	_	-
βーカロチン	_		_	0.008	5 同左
L-アスコルビン酸硫酸エステル					
二ナトリウム	0.	0 5		_	-
ジパルミチン酸アスコルビル	_		_	0.05	-
パルミチン酸アスコルビル	_		_	0.05	同左
リポフラビン酪酸エステル	0.	0 0 1	l 同左	同左	同左
ジラウリン酸ピリドキシ	0.	0 0 1	l 同左	同左	同左
コメハイガ油	0.	1	_	_	<u> </u>
月見草油	_		_	0.05	-
ツバキ油	_		_	0.05	同左
ラズベリーエキス	0.	1	_	_	0.1
ブルーベリーエキス	_		0.1	_	0. 1
ワイルドベリーエキス	_		-	0.1	-
キイチゴエキス			-	-	0.1
キクラゲエキス	0.	1	0.1	_	_
高麗ニンジンエキス	_		0.1	0. 1	
黒砂糖エキス	_		_	0.1	0.1
香料	0.	3	同左	同左	同左
エデト酸2ナトリウム	0.	0 2	同左	同左	同左
水	5.	0	同左	同左	同左

WO 02/094214 PCT/JP02/03363

28

計 実施例12:105.402、実施例13:105.452

実施例14:105.447、実施例15:105.647

アンケートの結果を表13に示す。

(表13)

実施例11実施例12実施例13実施例14実施例15

泡立ちの良さ	4.	2	4.	4	4.	0	3.	8	4.	5
洗浄性(メイクの落ち)	3.	4	3.	5	3.	2	3.	5	3.	2
使用後の突っ張り感のなさ	3.	3	3.	0	3.	2	3.	7	3.	2
しっとり感	3.	5	3.	7	2.	9	3.	0	3.	2
くすみの軽減	3.	6	3.	9	4.	0	3.	3	3.	5
肌のつや	3.	6	3.	7	3.	7	3.	3	4.	1
弾力性	3.	4	3.	2	3.	4	3.	0	3.	7
総合評価	4.	0	4.	0	3.	4	3.	8	3.	7

実施例16、17

下記表14に示す乾燥後の洗浄料組成からなる洗浄用シートを作製した。シート作製に当たり表14からなる組成の成分を3.5倍量の水に溶解させ、この液をレーヨン70%、パルプ30%からなる80g/m²の重量の多孔性不織布(1.0mm×1.5mmの細孔、三昭紙業社製)に含浸させ、100℃、11分間乾燥機にて乾燥し100g/m²の実施例16の製品を得た。同様にして実施例17としてレーヨン70%、パルプ30%からなる80g/m²の重量のプレーンタイプで孔を透して光が透過しなく、且つ水が自由に透過する細孔がない不織布に同様の洗浄料を塗布し、乾燥減量を7質量%のものを作製した。これらを50cm×16cm(約7.8g:不織布6.3g、洗浄料1.5g)になるように裁断し、社内パネラー10名の協力を得て、得られた製品を、顔、髪、体の全身に連用し、使用後の評価をアンケート調査にて、各項目5点評価で評価した。その結果を表15に示す。

(表14)

原料成分	配合量(質量部)
2-アルキル-N-カルボキシ	
メチルーN-ヒドロキシエチル	
イミダゾリニウムベタイン	20.0
ラウロイルメチルー α ーアラニン	
ナトリウム	15.0
ラウリルジメチルアミノ酢酸ペタイン	10.0
β - ラウリルアミノプロピオン酸ナトリウム	5.0
スルホコハク酸ラウリル 2 ナトリウム	5. 0
ラウロイルサルコシンナトリウム	5. 0
ポリエチレングリコール 4 0 0	10.0
ポリエチレングリコール1500	10.0
ポリエチレングリコール6000	10.0
プロピレングリコール	4. 0
ポリオキシエチレン	
グリセリル (26E.O.)	10.0
グルコン酸クロロヘキシジン液	0. 02
クエン酸	0.3
クエン酸ナトリウム	0. 02
パラペン	0. 2
酢酸- d l - α-トコフェロール	0. 1
L-アスコルビン酸硫酸エステル	0. 02
ニナトリウム	
ビタミンA油ゼラチンカプセル	0.05
ラズベリーエキス	0. 1
ブルーベリーエキス	0. 1.

WO 02/094214 PCT/JP02/03363

30

発芽ハトムギエキス	0. 1
高麗ニンジンエキス	0. 1
ハトムギエキス	0. 1
香料	0. 3
エデト酸2ナトリウム	0.02
水	5. 0
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	
計	110.53

(表15)

評価項目	ミ施例16	実施例17
泡立ちの良さ	4. 0	3. 4
洗浄性(体)	4. 2	2. 5
使用後の突っ張り感のなさ	3.6	2. 5
しっとり感(体)	3. 2	2.6
つや(体)	3. 3	3. 1
弾力性(体)	3. 8	3. 2
総合評価	4. 1	3. 0 ⁻

表15の結果から明らかなように、特に実施例16はすべての面で、優れていることは明らかである。また髪、顔、全身を洗浄するのに優れた洗浄剤である。

### 実施例18

下記表 16 に示す乾燥後の洗浄料組成からなる洗浄用シートを作製した。シート作製に当たり表 16 からなる組成の成分を 3 . 0 倍量の水に溶解させ、この液をレーヨン 70 %、パルプ 30 % からなる 80 g / m 2  の重量の多孔性不織布(1 . 0 mm× 1 . 5 mmの細孔、三昭紙業社製)に含浸させ、80 ℃、15 分間乾燥機にて乾燥し、重量が 110 g / m 2  で、乾燥減量 15 . 0 質量%の半製品を得

た。次いで、香料をエタノールにて香料濃度1質量%に溶解したものを、上記乾燥したものに噴霧し所定量を塗布し、実施例16の製品を作製した。これを16 cm×16 cmになるように裁断し、社内パネラー10名の協力を得て、得られた製品を、額の洗顔に連用し、使用後の評価をアンケート調査にて、各項目5点評価で評価した。その結果を表17に示す。

(表16)

原料成分	配合量(質量部)
ラウリン酸アミドプロピルジメチルアミンオキシド	11.2
ラウリン酸ジメチルアミノ酢酸ベタイン	10.0
ヤシ油脂肪酸アミドプロピルベタイン	4. 9
ラウリン酸アミドプロピルベタイン	5. 1
モノラウリン酸ポリグリセリル	8. 6
モノラウリン酸ポリオキシエチレンソルピタン(20 E.	O.) 2.9
ポリオキシエチレングリセリル(26E.O.)	9.8
ポリエチレングリコール(400)	9.8
グリセリン	16.3
エデト酸二ナトリウム	0.2
クエン酸	1. 0
イソプロピルメチルフェノール	1. 6
サリチル酸	0.5
香料(エタノール液)	0.6
酢酸 $-d 1 - \alpha - $ トコフェロール	0.16
アスコルビン酸グルコシド	0. 2
海藻エキス(褐藻)	0. 2
セージエキス	0. 1
水	15.0

計

98.16

(表17)

評価項目	実施例18
泡立ちの良さ	4. 2
香りのよさ	3. 8
洗浄性(メイクの落ち)	3. 7
洗浄後のつっぱり感のなさ	3. 5
しっとり感	4. 0
つるつる感	4. 0
くすみの低減	3. 8
肌のつや	3. 8
総合評価	4. 0

表17の結果から明らかなように、実施例10は、すべての面で、優れていることは明らかである。

### 産業上の利用可能性

以上のごとく、本発明により、泡立ちが良好で、泡の緻密性や安定性に優れ、 洗浄力にも優れ、使用後の肌の突っ張り感や刺激性がなく、肌のしっとり感や肌 のつるつる感等に優れ、肌のくすみを低減させ、肌のつやや弾力性を高め、携帯 性や品質の安定性に優れた洗浄用シートを提供できることは明らかである。

#### 請 求 の 範 囲

- 1. (a) 両性界面活性剤、炭素数8~22の高級脂肪酸アミドプロピルアミンオキシドからなる群から選ばれる1種以上の界面活性剤を30~70質量%含み、且つ総界面活性剤量として40質量%以上、(b) ポリオキシアルキレングリセリルエーテル(アルキレンの炭素数は2及び/又は3)1~15質量%を含有する洗浄料が、不織布、和紙、フィルム、発泡体シートおよび編織布から選ばれる1種以上のシート基材に、乾燥した状態で塗布又は含浸されていることを特徴とする、使用時に水またはお湯を加え泡立てて使用することを特徴とする洗浄用シート。
- 2. さらに、洗浄料中に(c)多価アルコールを $5\sim5$ 0質量%含有することを特徴とする、請求項1記載の洗浄用シート。
- 3. さらに、洗浄料中に(d)カロット、アセロラ、桃の葉、アロエ、ムクロジ、マロニエ、レモン、カンゾウ、オリーブ、茶、ユズからなる群から選ばれる植物の抽出物、圧搾油、蒸留油の少なくとも1種以上、及び/又はロイヤルゼリー、シルク分解物、コラーゲン分解物、ヒアルロン酸及びその塩、エラスチン分解物、ケラチン分解物からなる群から選ばれた動物由来物質を少なくとも1種以上を含有することを特徴とする、請求項1または2に記載の洗浄用シート。
- 4. さらに、洗浄料中に(e)プルーン、オレンジ、ローズヒップ、ハトムギ、発芽ハトムギ、ベニバナ、ホップ、小麦ハイガ、コメハイガ、月見草、ツバキ、ラズベリー、ブルーベリー、ワイルドベリー、キイチゴ、高麗ニンジン、桃の果実、ペパーミント、サボンソウ、セージ、キクラゲ、海藻、黒砂糖からなる群から選ばれる植物の抽出物、圧搾油、蒸留油の少なくとも1種以上、(f)酢酸ー  $d1-\alpha$ —トコフェロール、ニコチン酸一 $d1-\alpha$ —トコフェロール、 $d1-\alpha$ —トコフェロール、 $d1-\alpha$ —トコフェロール、ドクラン、アスコルビン酸、アスコルビン酸ナトリウム、アスコルビン酸配糖体、 $\beta$ -カロチン、アスコルビン酸、アスコルビン酸ナトリウム、アスコルビン酸配糖体、 $\beta$ -カロチン、アスコルビン酸ステアリン酸エステル、 $\beta$ -カロチン、ジパルミチン酸ア

スコルビル、パルミチン酸アスコルビル、シアノコバラミン、エルゴカルシフェロール、コレカルシフェロール、ビオチン、チアミン塩酸塩、チアミン硝酸塩、リボフラビン、リボフラビン酪酸エステル、ジカプリル酸ピリドキシン、ジパルミチン酸ピリドキシン、ジラウリン酸ピリドキシン、オロット酸、メナジオンからなる群から選ばれる化合物の少なくとも1種以上を含有することを特徴とする請求項1~3のいずれか1項に記載の洗浄用シート。

- 5. 洗浄料が、シート基材の表面積に対して $2\sim50$  g $/m^2$ 含浸され、かつ乾燥減量が $2\sim30$  質量%の乾燥状態にあることを特徴とする請求項 $1\sim4$  のいずれか1 項に記載の洗浄用シート。
- 6. シート基材の表面に細孔が形成され、各細孔の大きさが  $0.1 \sim 9 \, \text{mm}^2$ であり、かつ該シート基材の質量が  $2.0 \sim 1.2.0 \, \text{g/m}^2$ であることを特徴とする請求項  $1 \sim 5$  のいずれか 1 項に記載の洗浄用シート。
- 7. さらに、洗浄料中に、(g)  $70\sim125$   $\mathbb{C}$ で  $30\sim250$  秒の乾燥条件下でも保香性を有する香料を含有することを特徴とする請求項 $1\sim6$  のいずれか 1 項に記載の洗浄用シート。
- 8. 使用時に洗浄用シートに加える水又はお湯の質量が、洗浄用シートの最終質量の2~20倍であり、かつ泡立ててから使用することを特徴とする請求項1~7のいずれか1項に記載の洗浄用シートの使用方法。
- 9. 請求項1~8のいずれか1項に記載の洗浄用シートの製造方法であって、洗 浄料と水及び/又はエチルアルコールを含有する洗浄料液を、シート基材に、塗 布又は含浸した後、乾燥して水及び/又はエチルアルコールを除去することを特 徴とする洗浄用シートの製造方法。

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP02/03363

	SIFICATION OF SUBJECT MATTER .C1 ⁷ A61K7/50, A61K7/02		
	to International Patent Classification (IPC) or to both n	ational classification and IPC	
	S SEARCHED		
Minimum a Int.	locumentation searched (classification system followed .Cl ⁷ A61K7/50, A61K7/02	by classification symbols)	
Documentat	tion searched other than minimum documentation to th	e extent that such documents are included	in the fields searched
Electronic d	lata base consulted during the international search (nam	ne of data base and, where practicable, sea	rch terms used)
ר חומנו	MENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT	·	
			The state of the No.
Category*	Citation of document, with indication, where ap		Relevant to claim No.
Y	US 5972361 A (The Procter & 26 October, 1999 (26.10.99), Full text & WO 98/18444 A1 & EP		1-9
Y	US 5951991 A (The Procter & 14 September, 1999 (14.09.99) Full text & WO 98/52538 A1 & EP	),	1-9
Y	US 6162834 A (L'Oreal), 19 December, 2000 (19.12.00), Full text (Family: none)		1-9
Y	US 5980931 A (The Procter & 09 November, 1999 (09.11.99), Full text (Family: none)		1-9
X Furthe	er documents are listed in the continuation of Box C.	See patent family annex.	
Special categories of cited documents:  "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance  "B" earlier document but published on or after the international filing date and not in conflict with the application but cited understand the principle or theory underlying the invention document of particular relevance; the claimed invention can considered novel or cannot be considered to involve an inverse step when the document is taken alone document of particular relevance; the claimed invention can considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art document member of the same patent family  Date of the actual completion of the international search 26 June, 2002 (26.06.02)  "T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited understand the principle or theory underlying the invention document of particular relevance; the claimed invention can considered to involve an inventive step when the document is combination being obvious to a person skilled in the art document member of the same patent family  "E" document relevance; the claimed invention can considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art document member of the same patent family  Date of mailing of the international search report 0.9 July, 2002 (09.07.02)		ne application but cited to enlying the invention claimed invention cannot be red to involve an inventive claimed invention cannot be to when the document is documents, such a skilled in the art family	
Name and m	nailing address of the ISA/	Authorized officer	
	nese Patent Office	Announce office.	
Facsimile No	o.	Telephone No.	

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP02/03363

C (Continua	tion). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT	
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	US 6063397 A (The Procter & Gamble Co.), 16 May, 2000 (16.05.00), Full text (Family: none)	1-9
Y	JP 11-35972 A (Lion Corp.), 09 February, 1999 (09.02.99), Full text (Family: none)	1-9
Y	<pre>JP 5-179286 A (Kanebo, Ltd.), 20 July, 1993 (20.07.93), Full text (Family: none)</pre>	1-9
Y	JP 2000-143488 A (Ichimaru Pharcos Co., Ltd.), 23 May, 2000 (23.05.00), Full text (Family: none)	3-9
Y	WO 99/13861 A1 (The Procter & Gamble Co.), 25 March, 1999 (25.03.99), Full text	6-9
	& JP 2001-516712 A	
		·
	•	
		·
	,	

Form PCT/ISA/210 (continuation of second sheet) (July 1998)

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))			
Int. C	1' A61K7/50, A61K7/02		•
	ラッた分野 最小限資料(国際特許分類(IPC))		
	1' A61K7/50, A61K7/02		
			,
最小限資料以	外の資料で調査を行った分野に含まれるもの		
国際調本では		調本に使用した田笠)	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
四际网生(化)	もした电子ノーク・ハース(ノーク・ハースの名が、	例里に使用 ひに用品/	
	•		
C. 関連する	ると認められる文献		4
引用文献の カテゴリー*	月月文献名 及び一部の箇所が関連すると	ときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	US 5972361 A (THE PROCTER & GAMBL		1-9
	全文献を参照。		; ,
	&WO 98/18444 A1   &EP 946141 A		
,,	NO FORMON A CHARLE	D 00000000 1000 00 14	
Y US 5951991 A(THE PROCTER & GAMBLE COMPANY)1999.09.14 1-9 全文献を参照。		1-9	
&WO 98/52538 A1			
	&EP 1011628 A		1
X C欄の続	きにも文献が列挙されている。		J紙を参照。 
* 引用文献(	のカテゴリー 車のある文献ではなく、一般的技術水準を示す	の日の後に公表された文献 「T」国際出願日又は優先日後に公表:	された文献であって
もの		出願と矛盾するものではなく、	
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日 の理解のために引用するもの 以後に公表されたもの 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで			
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 の新規性又は進歩性がないと考えられるもの   日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他のご			
文献 (理由を付す) 上の文献との、当業者にとって自明である組合 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 よって進歩性がないと考えられるもの			
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願 「&」同一パテントファミリー文献			
		国際調査報告の発送日	7.02
	26.06.02		<del></del>
	の名称及びあて先 国特許庁 (ISA/JP)	特許庁審査官(権限のある職員) 変藤 恵	4 P 9 1 6 4
1	郵便番号100-8915 節千代田区霞が関三丁目4番3号	電話番号 03-3581-1101	♪ 内線 3490

C (続き). 関連すると認められる文献			
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号	
Y	US 6162834 A(L'OREAL) 2000. 12. 19 全文献を参照。 . (ファミリーなし)	1-9	
Y	US 5980931 A(THE PROCTER & GAMBLE COMPANY)1999.11.09 全文献を参照。 (ファミリーなし)	1-9	
Y	US 6063397 A(THE PROCTER & GAMBLE COMPANY)2000.05.16 全文献を参照。 (ファミリーなし)	1-9	
	JP 11-35972 A(ライオン株式会社)1999.02.09 全文献を参照。 (ファミリーなし)	1-9	
Y	JP 5-179286 A (鐘紡株式会社) 1993.07.20 全文献を参照。 (ファミリーなし)	1-9	
Y	JP 2000-143488 A(一丸ファルコス株式会社)2000.05.23 全文献を参照。 (ファミリーなし)	3-9	
Y	WO 99/13861 A1(THE PROCTER & GAMBLE COMPANY)1999.03.25 全文献を参照。 &JP 2001-516712 A	6-9	